

## 長野県新産植物 3 種の報告

藤田 淳一\*・小澤 正幸\*\*

長野県内には3,257種(亜変種, 雑種, 外来種含む)の維管束植物が生育し(清水監修 1997)、近年さらに新産種が見つかってきている。これまで長野県内で採取した標本の中から、「長野県植物誌(清水監修 1997)」及び「CD-ROM 長野県植物誌資料集(普及版)(長野県植物誌資料集作成委員会 2005)」に掲載がなく、長野県新産となる3種を紹介する。  
注 NAC; 長野県環境保全研究所ハーバリウム

## (1) オオミズヒキモ(ヒルムシロ科)

*Potamogeton* × *kamogawaensis* Miki

長野県下伊那郡松川村元大島 2006年10月4日  
NAC171912(写真1)

ホソバミズヒキモとヤナギモの雑種とされ、カモガワモとも呼ばれる(杉本 1982, 角野 2014)。

天竜川に合流する支川にて生育を確認し、花序が複数ついていた。しかし、いずれも結実していないため、雑種の可能性があると考え、標本を採集した。後日、詳細を確認した結果、ホソバミズヒキモ *Potamogeton octandrus* Poir. とヤナギモ *Potamogeton oxyphyllus* Miq. の中間的な特徴がみられたため、オオミズヒキモとした。同定にあたっては、葉脈が3本、花穂の花の塊が3段で類似種のアイノコイトモ *Potamogeton* × *orientalis* Hagstr. よりも長い点に着目し、角野(1994, 2014)の記述に拠った。山口ら(2006)は、オオミズヒキモの分類形質として茎の断面、殖芽の形態と形成時期、越冬状態(地下茎の有無)を挙げている。標本の個体は、浮葉を形成していなかったが、角野(2014)によると少数の浮葉を形成するものもあるとされる。

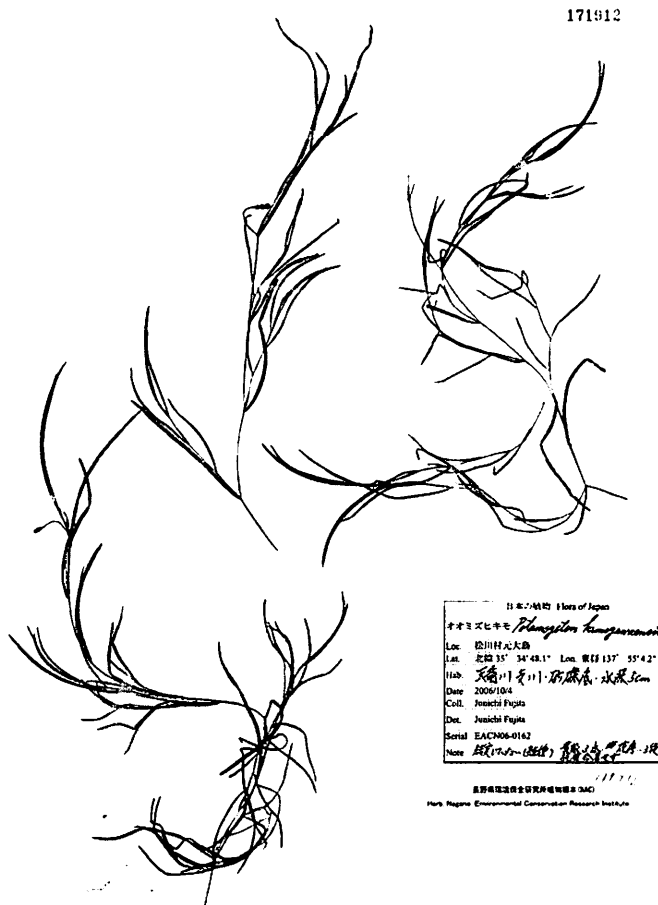
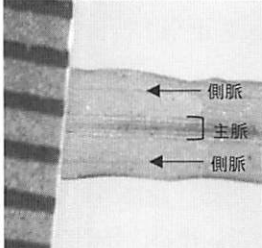
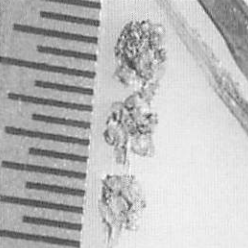
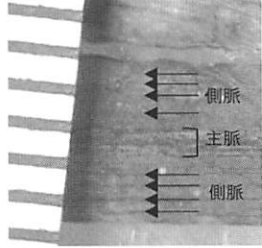


写真1 オオミズヒキモ

\* 藤田淳一 〒390-0313 長野県松本市岡田下岡田 243-2  
サープラス I アルプ 203

\*\* 小澤正幸 〒357-0112 埼玉県飯能市下名栗 243

表1 オオミズヒキモ ホソバミズヒキモ ヤナギモの主な特徴  
(写真中スケールは1目盛0.5mm)

| 種名                                                      | 葉脈                                                                                        | 花穂と結実                                                                                                           | 茎の断面 |
|---------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|
| オオミズヒキモ<br><i>Potamogeton</i> ×<br><i>kamogawaensis</i> | <br>3本   | <br>花穂の長さ 5～12mm<br>花の塊が3段、不稔 | 楕円形  |
| ホソバミズヒキモ<br><i>Potamogeton</i><br><i>octandrus</i>      | 1本(主脈のみ)                                                                                  | 花穂の長さ 9～13mm<br>花の塊が3～4段、結実                                                                                     | 円形   |
| ヤナギモ<br><i>Potamogeton</i><br><i>oxyphyllus</i>         | <br>5本以上 | <br>花穂の長さ 6～12mm<br>花が連続、結実   | 楕円形  |

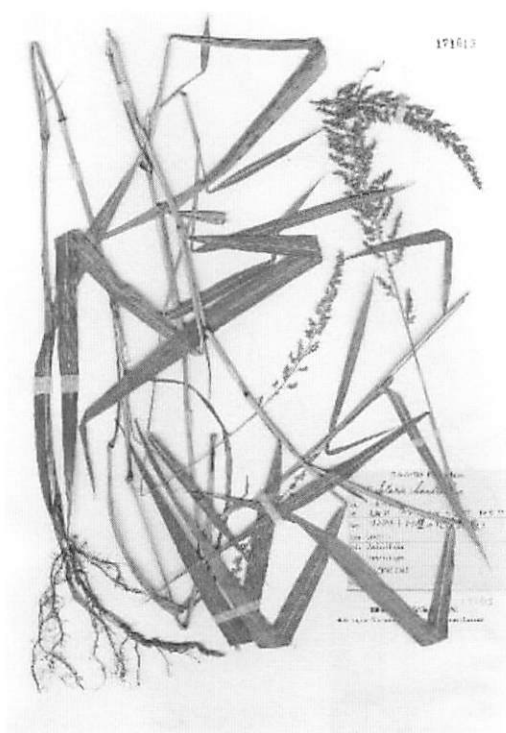


写真2 イヌアワ

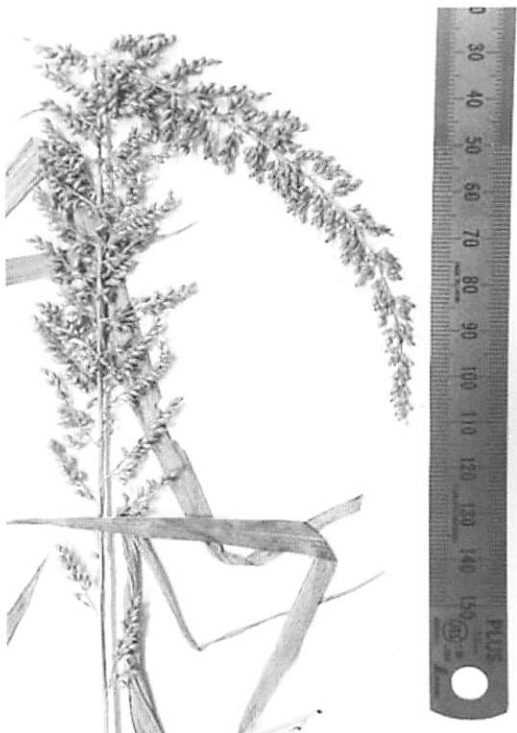


写真3 イヌアワの花序

表1にオオミズヒキモと両親とされるホソバミズヒキモ、ヤナギモの主な特徴を示す。表1のオオミズヒキモは写真1の個体、ヤナギモの写真は、手持ちの標本を撮影した。なお、類似種のアイノコイトモは、花穂が2～5mmと短く、花の塊が連続

する(角野2014)。

ヒルムシロ属 *Potamogeton* は、地味で小さな器官を詳しく確認しなければ同定が困難であるため、これまで概観から「ホソバミズヒキモ」、「ヤナギモ」、「アイノコイトモ」として記録されているものに本

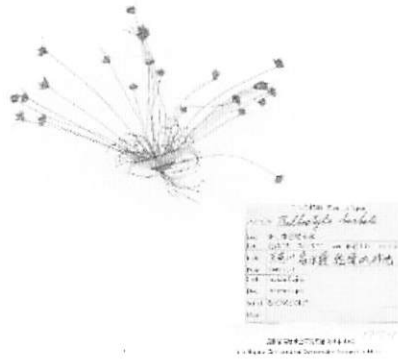


写真4 ハタガヤ

写真5 ハタガヤの花序  
(スケール 1 目盛: 0.5mm)

種を含んでいる可能性がある。

### (2) イヌアワ (イネ科)

*Setaria chondrachne* (Steud.) Honda

長野県下伊那郡天龍村神原 2006 年 10 月 1 日  
NAC171913 (写真 2, 3)

暖地の林縁に生育するエノコログサ属 *Setaria* で、花序がまばらであるため、他種とは容易に区別できる (長田 1993)。

天龍村の県道沿いに設置されたコンクリート擁壁の間に生育を確認した。結実した状態で、地下茎も長く伸びていたことから、長年生育していたものと考えられる。また、同所的に県内では稀産のラセンソウ (シナノキ科) も生育していた。

イヌアワは、県南端部のほか、長野県に隣接した新潟県糸魚川市でも目撃しているため、県北部からも記録が期待される。

### (3) ハタガヤ (カヤツリグサ科)

*Bulbostylis barbata* (Rottb.) Kunth

長野県飯田市松尾清水 2006 年 10 月 3 日  
NAC171911 (写真 4, 5)

日当たりの良い砂質の畑地や空き地に生育する一年草である (星野他 2011)。

天竜川の乾燥した高水敷に生育を確認した。工事用車両の行き交う場所の周辺であったこと、これま

で確認例がなかったことから、他所からの移入の可能性も考えられる。確認地点に近い飯田松川 (飯田市上郷別府) の高水敷でも複数個体が生育していた。自生、移入双方の可能性から、その後の動向が注目される。

### 謝辞

本報告の作成にあたっては、長野県環境保全研究所の大塚孝一様より多くの助言を頂き、長野県環境保全研究所ハーバリウム (NAC) への標本の登録作業をして頂きました。心より御礼申し上げます。

### 引用文献

- 星野卓二 他 (2011) 日本カヤツリグサ科植物図譜, 平凡社.  
角野康郎 (1994) 日本水草図鑑, 文一総合出版.  
角野康郎 (2014) ネイチャーガイド 日本の水草, 文一総合出版.  
長野県植物誌資料集作成委員会 (2005) CD-ROM 長野県植物誌資料集 (普及版), 長野県植物誌資料集作成委員会.  
長田武正 (1993) 増補日本イネ科植物図譜, 平凡社.  
清水建美 監修 (1997) 長野県植物誌, 信濃毎日新聞社.

杉本順一（1982）日本草本植物総検索誌Ⅱ 単子葉，  
井上書店．  
山口順司・小藤累美子・木下栄一郎（2006）手取  
川水系に生育するオオミズヒキモ（ヒルムシロ

科）の形態的、生態的、遺伝的特性に関する  
研究金沢大学自然計測応用研究センター年報，  
2006 pp115-117.